

### 3) 災害拠点建物の安全度即時評価および継続使用性即時判定

楠 浩一（東京大学准教授）



楠准教授からは、「災害拠点建物の安全度即時評価および継続使用性即時判定」についての報告がありました。楠准教授は「熊本地震に限らず、これまでも災害拠点になるべき建物が、残念ながら大きな被害を受けている例がある。こういった建物は即座に拠点としての機能を発揮する必要があるので、そのまま使えるかの判断がすぐに必要になる。しかし、こういった拠点がずっと使えるかどうかの判定は構造物だけではなく、例えば天井、外壁タイルが被害を受けていないかということも非常に重要な項目になる。今回の私たちの課題は、こういった非構造の被害もモニタリングで判断するとともに、どれぐらいの加速度レベルでこういった被害が出るかを検証しようというもので実大規模から実物の建物へ試験体を進化させるという実験を行っている」と、実験の概要を解説しました。

今後は、カメラを使った損傷同定や光ファイバーを使った非構造部分の判定を全体の判定システム上でリンクさせ、構造物だけでなく非構造体の判定も追加し、地震直後に結果をインターネット上で表示し、登録している人にはメールでクイックレポートを送るというシステムを構築しようとしており、今年度はリンク部分の実装まで終了しています。楠准教授は「再来年度に加振実験を予定しているが、その時にはこのシステムを稼働させ、振動台が動き始めると自動的に自信を

